

認知症を再生医療で治すプロジェクトが始まっています

2

アルツハイマー病で最も重要な問題は、新規記憶の障害！

文 田口明彦

text by Akihiko Taguchi

前は、神経細胞の壊死がなくてもアルツハイマー病になり、逆に神経細胞の壊死が起こってもアルツハイマー病にならない患者さんがいるため、実際は神経細胞の壊死は、アルツハイマー病でさほど重要な問題ではない、という話をしました。

医学の教科書には、アルツハイマー病の原因として、神経細胞の壊死、神経細胞に悪影響を与えるアミロイドβやタウタンパクの蓄積・慢性の炎症等が列挙されています。どれもとても重要ですが、これらの原因が全くなくてもアルツハイマー病になる方もいれば、全部揃っていても元気な方もいらっしゃるから考えると、どれも決定的な因子でないことが実は明らかです。それでは、アルツハイマー病の患者さん全てに共通することは何でしょうか？それは新規記憶の障害です。新規記憶の障害があっても、必ずしもアルツハイマー病とは限りませんが、アルツハイマー病であれば必ず新規記憶の障害を伴います。また、患者さんや家族の多くが困っていらっしやるの

は、新規記憶の障害ですので、アルツハイマー病で最も重要な問題は、新規記憶の障害であることも明らかです。

それでは、なぜ新規記憶の障害が起こるのでしょうか？ドラマでは長期にわたり記憶がなくなる「記憶喪失」の人の話がよく出てきますが、私はそのような患者さんを診たことはありません。ただ、一時的に新規記憶ができなくなる「一過性全健忘」の患者さんにはしばしば遭遇します。多くの一過性全健忘の患者さんには、脳の「海馬」という部分に一過性の異常が起こることが知られていました。また、過去にはてんかんの治療のため脳の部分切除が行われていた時代があり、「海馬」を切り取ってしまった患者さんは新規記憶ができなくなることも知られていました。それでは、脳の「海馬」はアルツハイマー病と関連しているのでしょうか？最近の研究で「海馬」の障害こそがアルツハイマー病の原因であることが分かっています。

(続きは次回に…)



Profile

神戸医療産業都市推進機構
先端医療研究センター部長
米コロンビア大学、国立循環器病研究センターを経て現職。間葉系幹細胞を使った再生医療による体内での再生促進・炎症制御の作用メカニズムを世界に先駆けて解明。次世代細胞治療を、日本から世界に普及させていくための研究開発を行っている。